

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	15-017	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Direct and interactive effects of parent, friend and schoolmate drinking on alcohol use trajectories. 両親や友人との関係、学友との飲酒がその後の飲酒行動に及ぼす影響について		
<b>執筆者</b>		
Lynch AD, Coley RL, Sims J, Lombardi CM, Mahalik JR.		
<b>掲載誌</b>		
Psychol Health. 2015;30(10):1183-205. doi: 10.1080/08870446.2015.1040017.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
青少年、社会要因、飲酒、縦断研究		25913368
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> 両親や友人との関係や学友と飲酒といった社会要因と、その後の飲酒行動に及ぼす影響を明らかにする。</p> <p><b>方法：</b> 青少年 18,921 人を 13 年間追跡した the National Longitudinal Study of Adolescent Health のデータを用いて分析した。離散混合モデルとマルチレベル回帰分析を用いて両親や友人との関係や学友との飲酒といった社会要因と、その後の飲酒行動、アルコール中毒との関連を分析した。</p> <p><b>結果：</b> 両親や友人との関係、学友との飲酒などの社会要因は、その後の飲酒行動を予測するのに有用であった。これらの社会要因は交互作用を示し、特に学友との飲酒は、両親や友人との関係がその後の飲酒行動に及ぼす影響に、強く作用していた。</p> <p><b>結論：</b> 多様な人との関係は、それぞれその後の飲酒行動に影響を及ぼしており、また相互に作用していることが明らかとなった。青年期の飲酒行動を予防するには、多様な人との関係などの社会要因背景を理解する必要がある。</p>		